

三位一体と人間関係

アダム・クジャク

「父と子と聖霊のみ名によって」。私たちは十字を切るときはいつでも、私たちの神は一体ではなく、三つのペルソナが唯一の神のうちに存在する、という信仰の神秘を認識しています。それは私たちと他のあらゆる宗教を区別する宣言であり、カトリック信者として宣言する真理の土台です。三位一体を庭に咲いている花に例えるなら、根の部分は御父であり、茎は御子で、花は聖霊です。御父はイエス以外に誰も見たことがないから、土に隠れている根のようです。御子イエスは人間として私たちに見える形で地上に現れ、地面の上に現れた茎のようです。そして聖霊はよい香りの綺麗な花のようです。聖霊も誰も見たことがありませんが、聖霊の実を見ることが出来ます。例えば親切、寛容、忍耐、誠実などで。根から茎、それから花が咲くまでに通る養分は三位一体の内に流れている愛のようです。三つの部分からなっても一つの花です。三位一体の教えは、単に神学的な問題を説明するものではありません。それは父と子と聖霊の間に絶えず流れている親密な愛と交わり、神の内にある命について教えています。神はあまりにも偉大すぎて孤立した存在でも、私たちに関与しない神ではありません。神の存在そのものが我々との関わりで成り立っているのです。もし神ご自身を分かち合うことが、神の本質であるならば、私たちも互いの人生を分かち合うことが本来の生き方になります。聖パウロが私たちに思い起こさせるように、教えています。「私たちはキリストの体であり、体は、一つの部分ではなく、多くの部分から成っています」。私たちは互いに親しく交わり、神の国を建設し、すべての被造物に福音を述べ伝えるために、共に行動するように造られました。それを一人だけで果たそうとすることは無理なことで、決してうまくいかないことが分かるでしょう。聖霊とつながっている時にこそ、私たちは三位一体の神、それを最も明確に表す一つの言葉で理解することになります。それは、「愛」です。愛こそ、神が私たちに創造の業を行われたのです。愛こそ、イエスが私たちを救われた理由です。愛は、聖霊が私たちの心に住み、キリストの似姿へと私たちを変えることを選ばれたのです。そして愛は、神が決して私たちをお見捨てにならないという証しです。ですから、自問してみましょう。「私に対してこれほど恵みと慈しみを注いでくださる神に、どのようにすれば最も良い形で答えることができるだろうか」と。同時に必ず神の愛、あなたのためにしてくださったすべての源である愛を、思い巡らしてください。このように三位一体とは、単なる一体感の模範以上のものです。それは私たちに生きるための力を与えてくださいます。イエスが私たちを

愛してくださると、同じくらい私たちも互いに愛し合うことができます。

「聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです」。私たちが互いの交わりを深めていくと、私たちの人生と戸部教会は三位一体の命そのものを反映することになります。